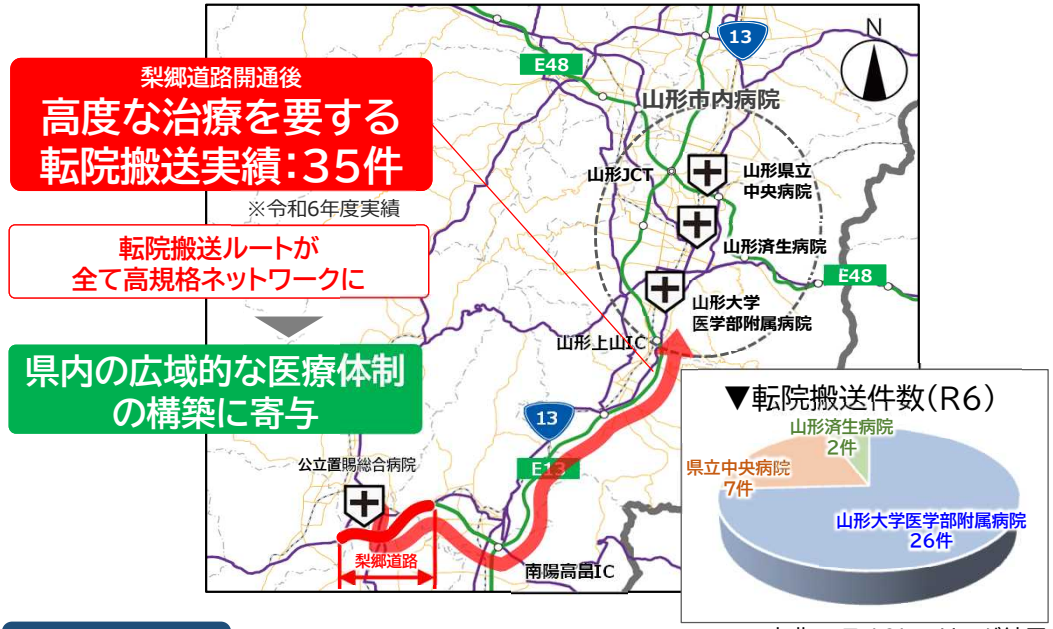
地域の医療活動を支援

○梨郷道路の開通により、置賜地域唯一の第三次救急医療機関(公立置賜総合病院)と高規格道路が直結。
○緊急性の高い患者の搬送時間の短縮や、患者に影響を及ぼす急ブレーキ多発区間の回避により、迅速かつ安定的な搬送が可能となり、地域の救急医療活動に貢献。
○梨郷道路と東北中央自動車道による高規格道路ネットワークの構築により、県内の広域的な医療体制にも寄与。

▼梨郷道路と公立置賜総合病院の位置状況

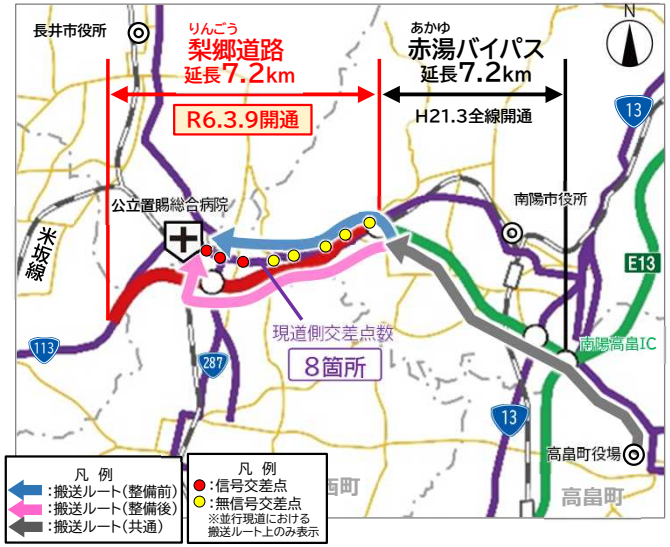


▼公立置賜総合病院から山形市内病院への転院搬送ルート



出典：R7.10ヒアリング結果

▼開通後搬送ルート
(高畠町役場→公立置賜総合病院)



▼開通前後の変化
(高畠町役場→公立置賜総合病院)

■搬送時間

開通前(並行現道)	開通後(梨郷道路)
27分	19分

搬送時間向上

■急減速頻度

開通前(並行現道)	開通後(梨郷道路)
2.8回/百台・km	0.5回/百台・km

搬送安定性向上

地域の救急医療に貢献

出典：ETC2.0プローブデータ
※所要時間：積雪深20cm/日以上の日の朝ピーク(7～9時)から算出
開通後：R6・開通前：R4　加減速：R6.6月

消防本部の声



●国道113号利用時は、交差点通過時等に加減速が強いられ、搬送時の安定性や傷病者への負担が懸念されていましたが、梨郷道路の整備により、安定性が格段に向上しました。

●梨郷道路の整備及びアクセス道経由で病院に直結したことで、公立置賜総合病院への搬送時間が短縮し、救急活動の迅速化に繋がっています。

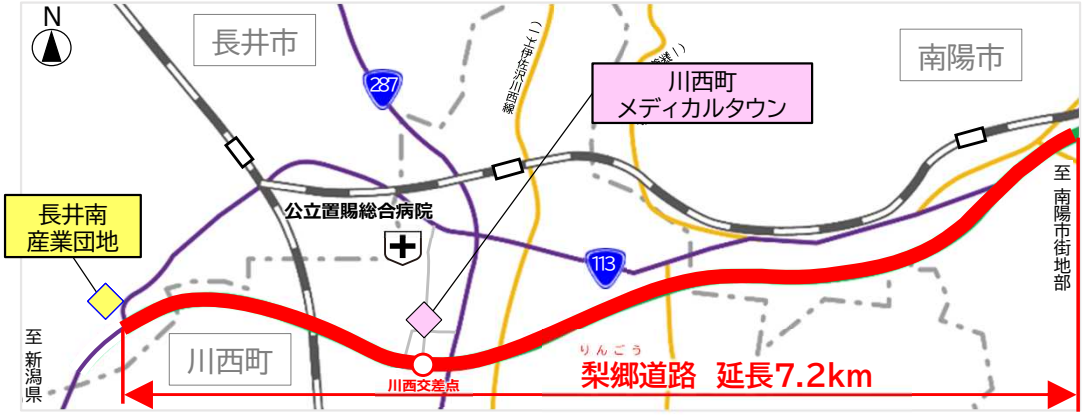
●山形市内の救急医療機関へ高度な治療を必要とする方を搬送する際、梨郷道路の整備により、目的地までの全区間を高規格道路で搬送できるようになりました。

出典：R7.10ヒアリング結果

沿線の地域開発を支援

○梨郷道路の整備を契機に、川西町では公立置賜総合病院周辺で医療・住宅・商業等が融合した都市機能を有する「メディカルタウン」事業を展開。
○計画的なまちづくりと梨郷道路の連携により、新規雇用や定住人口・交流人口の創出など、地域活性化を促進。
○梨郷道路の開通により、今後川西町メディカルタウン（南側）、長井南産業団地の地域開発が進展・加速化。

▼梨郷道路及び沿線開発の位置図



▼メディカルタウン(北側)開発による効果

定住人口の創出
17 区画(完売)※
※全世帯が町外からの移住

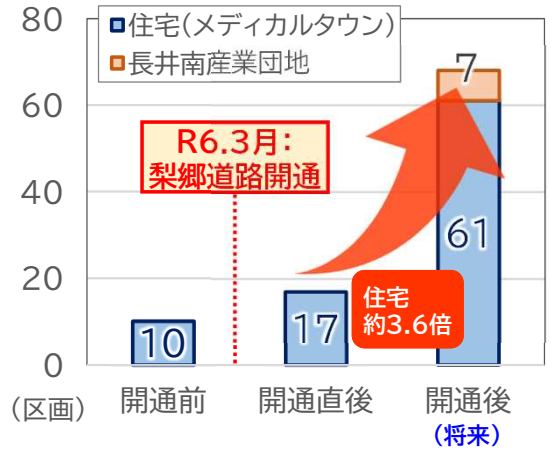
新規雇用創出
約 90 人※
※医療・商業施設(北側)の合計

交流人口
- 周辺市町※～メディカルタウン間の往来 → 24%増加
- 上記流動における梨郷道路の利用率 → 9割以上

※南陽市・高畠町・小国町・飯豊町

開通後R6.6月時点

▼沿線地域開発の分譲動向(累積・予定含)



道路計画を契機とした開発が地域活性化に寄与

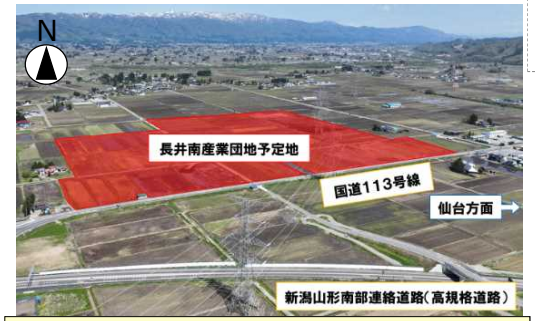
開通後、沿線開発がさらに進展・加速

▼川西町メディカルタウンの開発状況



R7.10月時点

▼長井南産業団地の開発



分譲開始予定：令和8～9年度
⇒第1次立地企業募集(R7.7.3～R7.9.30)
⇒第2次立地企業募集(R7.12.3～)

出典：川西町・長井市HP

▼梨郷道路・沿線開発のこれまでの動向

・平成20年度：梨郷道路事業化
・平成28年度：川西町メディカルタウン基本計画
・令和2～5年度：川西町メディカルタウン(北側)開業
・令和5年度：梨郷道路開通(R6. 3. 9)
・令和7年度：長井南産業団地造成工事着工

梨郷道路計画から始まるまちづくり

沿線自治体の声(川西町)



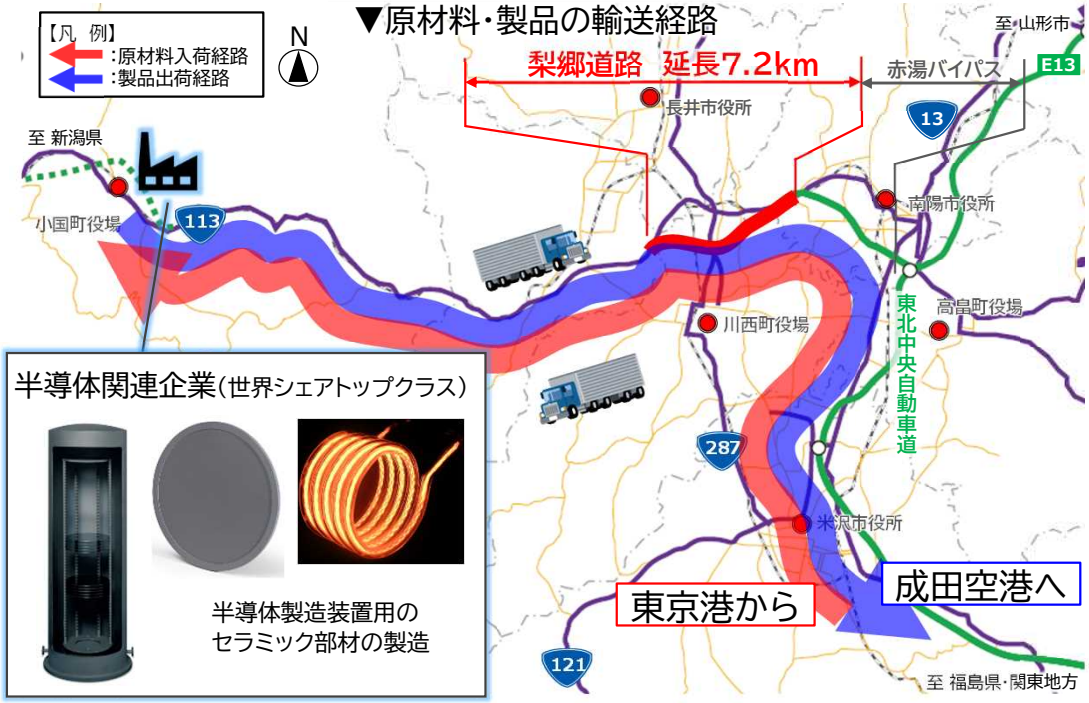
- 梨郷道路開通後、出店した店舗では利用者が10%程度増えた、医療機関の関係者からは町外からの通院が増えた等の声を聞いています。
- 山形市方面からの通勤者もおり、梨郷道路開通後、安心・安全に利用でき、アクセス性も良いという意見も聞いています。
- 住宅区域(南側)44区画の完成予定時期等、問い合わせが増えています。

出典：R7.10 ヒアリング結果

地域の広域物流を支援

○小国町の主力産業である半導体関連のセラミック部材を製造する製品世界シェアトップクラスの企業では、原材料の入荷、海外向けの製品出荷時に梨郷道路を利用。
○梨郷道路の整備を契機に設備投資を実施しており、梨郷道路開通後に増産体制構築完了・稼働開始し、生産量の増加、地域の新規雇用も創出するなど、地域産業を支援。
○梨郷道路と東北中央自動車道による高規格道路ネットワークの構築により、半導体のサプライチェーン強化に寄与。

▼原材料・製品の輸送経路



▼設備投資と投資による効果

設備投資により増産体制の構築
令和6年6月より稼働開始

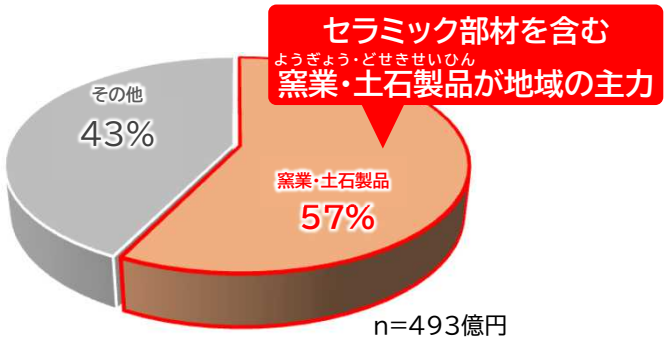


新規雇用創出
約 60 人
※稼働開始直後

生産量(売り上げ)
約 1.2 倍
※R6/R5比

半導体のサプライチェーンが強化

▼小国町における製造品出荷額



n=493億円
出典：R4経済構造実態調査

関連企業の声



- 製品出荷時の輸送には、国道113号は欠かせない道路であり、関東方面への輸送においては、梨郷道路を利用している。
- 梨郷道路整備を契機に、設備投資を行い国内生産体制を強化し、生産量も増加している。
- 梨郷道路、赤湯バイパス、東北中央自動車道の高規格道路のネットワーク化により、寸断されにくい安定的なルートが確保され、国内外生産のサプライチェーンを支えている。
- また、当該道路は従業員の通勤にも利用され、南陽・高畠方面からのアクセスが非常に楽になっており、特に冬場には効果を顕著に感じる。

出典：R7.10ヒアリング結果

地域の観光振興を支援

○梨郷道路周辺には白川湖の水没林をはじめ、複数の観光スポットが点在。
○高規格道路ネットワークが構築され、宮城県から飯豊町の観光地へのアクセス性・確実性・分かりやすさが向上し、同方面からの広域的な観光客が増加することで、地域の観光振興・賑わいの創出に寄与。

▼梨郷道路を利用した広域流動

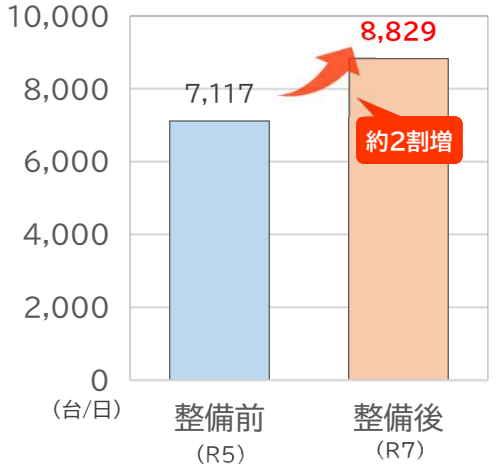






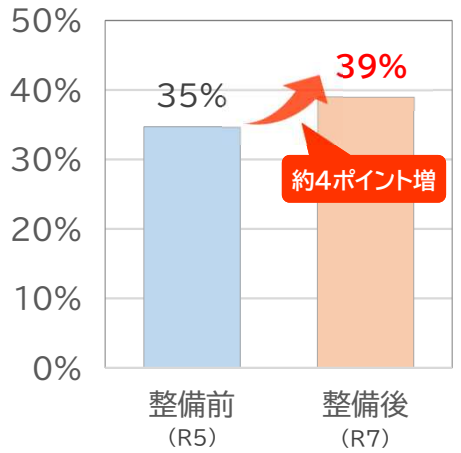
出典：飯豊町観光協会

▼断面交通量の変化
（赤湯バイパス）



出展：トラカンデータ（各年4/18～5/18）

▼県外から白川湖周辺への
来訪者に占める宮城県の割合



出展：ETC2.0データ（4～5月）
※白川ダム湖岸公園・キャンプ場等を含むメッシュを発着地とするトリップを抽出し、その出発地（県外）を集計

来訪者増による地域の賑わい創出

観光関係者の声



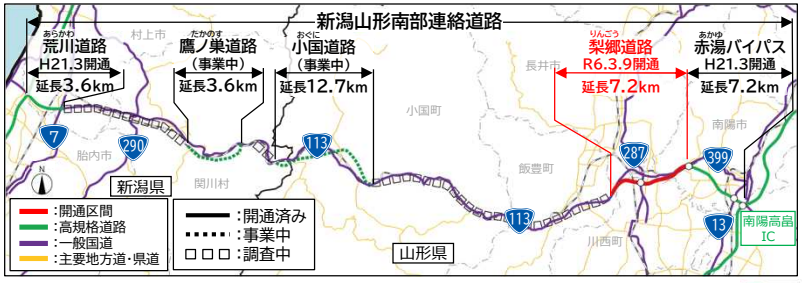
- 令和6年から令和7年にかけて来訪者が約1.8倍となっており、遠方からの来訪者も増加している。
- 遠方からのドライバーから水没林へのルートの問い合わせがあるが、所要時間・分かりやすさ・確実性の観点から梨郷道路を案内する。高規格道路ネットワークが繋がったことで、遠方からの来訪しやすさなど効果を感じている。

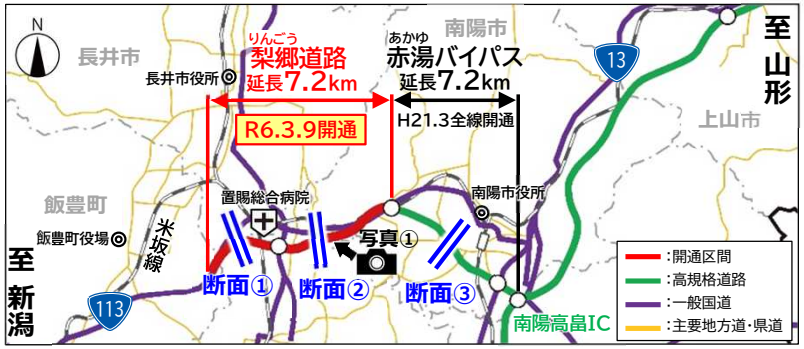
出典：R7.10ヒアリング結果

開通後の交通状況

○開通後の昨年度(R6.5)の交通状況は、国道113号から梨郷道路への交通転換が図られ、断面交通量は約1～4割増加。
○また、隣接する赤湯バイパスにおいても交通量が増加。
○今年度（R7.5）の交通状況は、梨郷道路・赤湯バイパスにおいて交通量は定着。
○なお、当該区間を利用する貨物車の７割が通過交通であり、開通後においては、概ね梨郷道路を使用(96%)。

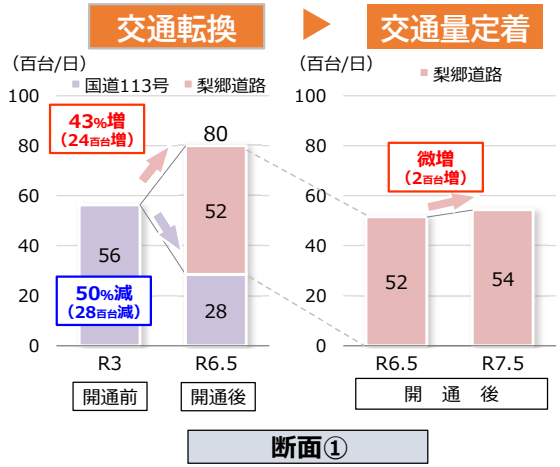
▼位置図

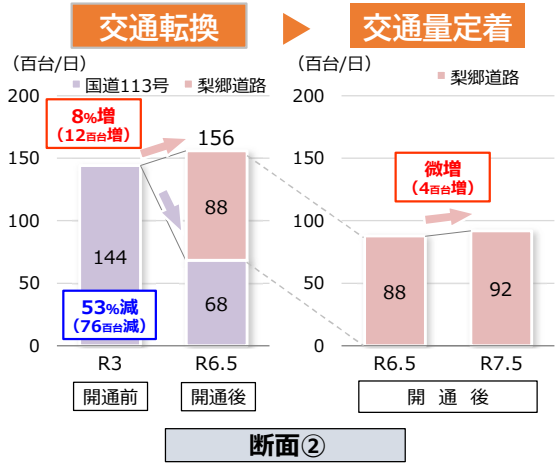


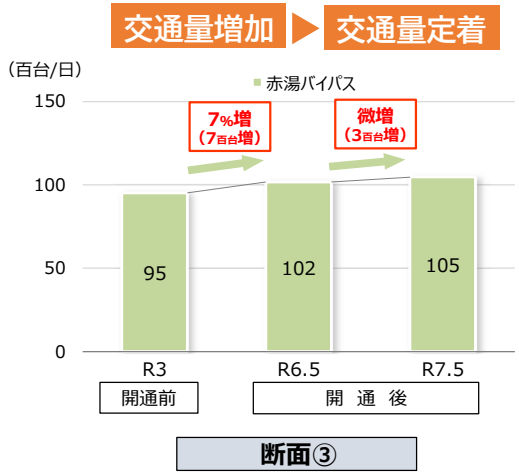




▼断面交通量の変化(全車・平日)







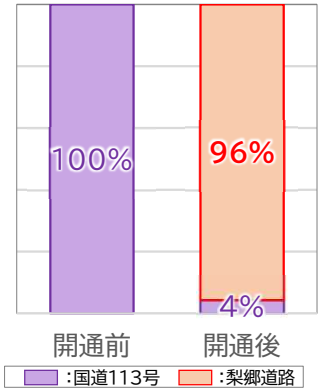
▼国道113号の路線特性

貨物車の7割は通過交通



▼通過交通の変化(貨物車)

概ね梨郷道路を使用



出典: ETC2.0プローブデータ(開通前R5.6、開通後R6.6)

出典:(R3)全国道路・街路交通情勢調査
(R6.5)国道113号並行現道:実態調査(R6.5.14・15の平日2日間平均値)
梨郷道路・赤湯バイパス:トラフィックカウンターデータ(R6.5.7~31の平日19日間における平均値)
(R7.5)梨郷道路・赤湯バイパス:トラフィックカウンターデータ(R7.5.7~30の平日18日間における平均値)